

# 治山工事を進めています！(H28実施工事(進行中))

工事名	平成27年度復旧治山事業第26号工事
箇所名	小川村 字 山中(やまなか)
主な工種	谷止工1個 L=31.0m H=7.5m b=2.0m V=570m <sup>3</sup>
目的	渓床内の不安定土砂及び流木の流下を抑止する。

小川村の山中地区において、平成27年3月18日融雪等の影響により、山腹崩壊が発生しました。上流の山腹斜面と渓床内に大量の不安定土砂が堆積し、今後の降雨等により下流保全対象へ影響を与えるおそれ大きいことから、谷止工を施工しています。

被災時 (H27.3月)

下流の既設谷止工が土砂を捕捉したものの、渓流内にたくさんの土砂と倒木が堆積しました。渓流に隣接している林道は土砂で完全に埋塞してしまいました。下流には人家があったため、土石流センサーを設置しました

伐採 (H28.6月)

上流から沢の水を排水管で下流まで誘導して(水廻し)、作業するところに水が流れないようにしてから、伐採から作業を進めていきます

掘削 (H28.7月)

地山にしっかりと構造物を入れるため床掘をしています

山腹崩壊の発生 (H28.8月)

床掘作業中だった8月、降雨により左岸側の斜面から山腹崩壊が発生してしまいました…!

型枠組立・コンクリート打設 (H28.12月)

ほとんど形が出来てきました

型枠組立・コンクリート打設 (H28.11月)

谷が急斜面で深いため、コンクリートの打設には索道を使い、上部の林道からコンクリートを少しずつ運びました

型枠組立・コンクリート打設 (H28.10月)

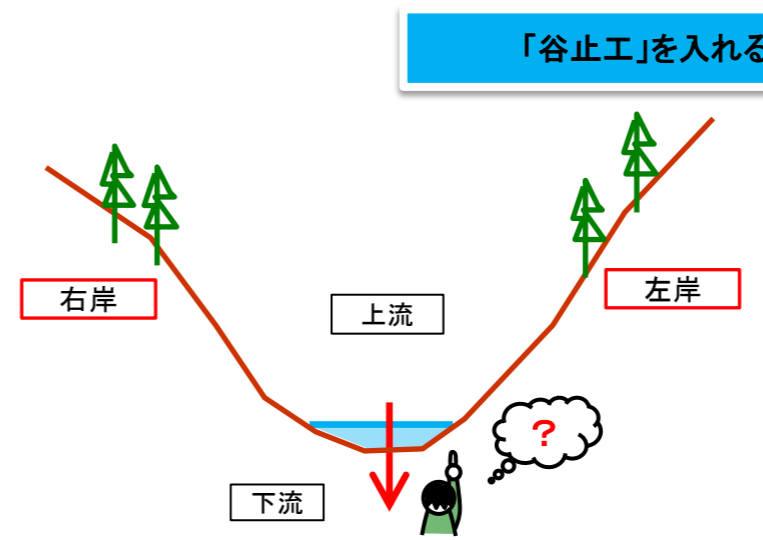
型枠の組立、コンクリートの打設を繰り返して、構造物を仕上げていきます。今回は本堤の谷止工のほか、流量が多いことから、谷止工の根元が洗掘されないよう、前方に「副堤」を施工します

崩壊地の復旧・床掘再開 (H28.9月)

崩壊した土砂や倒木の撤去、水廻しの復旧を行い、床掘を再開し始めました

型枠も外されて、本流に水が流され、無事に本堤と副堤が完成しました！  
残る工程は、周辺の土工と間詰工のみです

設計とおりの高さや寸法できているか、現場監督で確認します



治山では、渓間工（谷止工や床固工など）を施工する場合に、上流から見て右側を「右岸」、左側を「左岸」といいます。なので、下から見ると右左が逆のような言い方になってしまいます。  
ちなみに、山腹工は下から右左と見るので、渓間工とは逆になります。ややこしいですね…